

「学力向上アクションプラン～洛西方式Ⅱ～」

京都市立洛西中学校

1. はじめに

昨今の学力に関する国際調査の結果から、日本の中学生は知識・理解・技能の面では国際的にトップレベルを維持しているものの、意欲・関心などの情意面や学習習慣が定着していないなど家庭学習面には大きな課題があると指摘されている。

また、学力水準の低下ばかりか学力格差の問題についても、家庭の経済力や保護者の文化的階層の問題とリンクさせて、学力の二極化問題としてクローズアップされている。

本校においても就援受給率の上昇に見られるように経済的に恵まれない家庭は増加しつつあり、経済格差は拡大の方向に向かっている。また学力に関する二極化についても深刻な状況である。本校調査では家庭で全く学習しない生徒の割合が全市平均をはるかに上回る状況もあった。

そこで昨年より「学力水準の向上と学力格差の解消を実現するための5つの柱」を掲げ、「学習意欲の向上」と「学習習慣の定着」を目指し、学校教育のあり方を抜本的に見直し、さらに家庭学習のあり方についても再確認し、「確かな学力育成」の実践研究をすすめてきた。

2. 本校教育のねがいとねらい

本校では、先の今日的な課題や生徒の実態に即して、学校教育目標、目指す生徒像、「みやこパイロット・スクール」の研究テーマを次のように設定した。

(1) 学校教育目標

「よりよい社会の実現に貢献
しようとする人間性の育成」



(2) 目指す生徒像

- ① 真理・真実を素直に探究する心を育む。
- ② 自らの可能性を追求する粘り強い自己実現の姿勢を養う。
- ③ 社会の矛盾や課題に気づき、解決のために行動できる社会的な眼を養う。

(3) 「みやこ学校創生事業」(みやこパイロット・スクール) 研究テーマ

教科等研究(「学力向上アクションプラン～洛西方式Ⅱ～」)

～学力水準の向上と学力格差の解消を実現する5つの柱～

- ① 授業時数確保の取組(量的な学力向上プラン)
- ② 「わかる授業」を求めて、授業改善の取組(質的な学力向上プラン)
- ③ 家庭学習習慣化のための宿題の取組(家庭との連携による学力向上プラン)
- ④ 異校種連携の取組(小中高連携による学力向上の取組)
- ⑤ 土曜スクールの取組(地域との連携による学力向上プラン)

3. 「学力向上アクションプラン～洛西方式～」の基本思想

確かな学力向上を目指した本校の「学力向上アクションプラン～洛西方式Ⅱ～」の取組では、「学力水準の向上と学力格差の解消を実現する」ために5つの柱を設定している。これは、単に子どもたちの学力向上を目指すのではなく、子どもたちの学力格差の背景にあるものにも思いを寄せ、家庭や地域での教育と連携を図りつつ、公教育である学校教育が子どもたちの学力向上に責任を担うという宣言でもある。

このような取組は、ベンジャミン・S・ブルームが提唱した「すべての学習者に一定水準以上の学力を保障するための授業戦略」に関する基礎理論「完全習得学習」（マスタリー・ラーニング）を理論的支柱のひとつにしている。

本来、学校とはすべての子どもたちに学力をしっかりと身に付けさせ、人間としての成長をはかるところである。ところがその学校が、いわゆる「落ちこぼし」の子どもたちを大量につくり出してはいないのか。そしてその「落ちこぼし」の子どもたちは、いわゆる社会的弱者とされる家庭の子どもたちではないのか。ブルームはこのような問題意識から、すべての子どもたちにあらゆる学力を保障するための授業改善の方法を導き出したのである。

このブルームのマスタリー・ラーニングの理論は、まさしく本校教育が目指している「学力水準の向上と学力格差の解消」を実現する取組と軌を一にする。



4. 成果と課題

本校の「学力向上」の取組は、生徒一人ひとりの「学力向上」と生徒間における「学力の格差解消」を目指した実践研究である。その取組の成果は、昨年度全市レベルの学力に関する諸調査に見ることができる。3年生の学習確認プログラムにおいては、われわれの期待以上の成績を残してくれたし、学力定着調査においては、同一学年における2年間の経年比較をみると成績の上昇（生徒の頑張りの）のほどがはっきりと読み取れる。

しかし、本校の「学力向上」へ向けての取組がそれなりの成果をあげたからといって現状に満足してよいわけではない。低学力の生徒は、残念ながら依然として存在する。一律に低学力生徒といってもその原因、背景は様々であり、その原因や背景にも思いを寄せ、補充学習の機会をどれだけ保障し、学力の向上が図れるか。また学習が進んでいる生徒にも更に発展学習をどう進められるか。一人一人の生徒の「確かな学力」の定着を図ることが、われわれ公立学校に課せられた使命であり責任であると考えている。

5. 今年度の新たな課題

昨年度末、3月27日に学校運営協議会制度を立ち上げた。「学力向上アクションプラン～洛西方式Ⅱ～」についても、この制度を積極的に活用していきたいと考えている。具体的には、協議会委員の方々に、以下のことをお願いしたいと考えている。

- ①放課後や長期休業期間中の補充あるいは発展学習などの派遣講師を発掘する。
- ②早寝早起き朝ごはん・読書習慣など生活確立の取組を地域全体として進める。
- ③英語検定に特化した土曜スクールでは、学ぶ人も教える人も地域の人々から募る。